

笠間市総合計画審議会（第2回）会議録

会議名 第2回 笠間市総合計画審議会
日 時 平成28年9月6日（火） 午後7時から午後9時30分
場 所 市役所本庁 行政棟2階 大会議室
出席者 出席委員（敬称略） 小原規宏会長，大津廣司副会長，小松崎均，西山猛，畑岡洋二，飯村信康，大峰渉，川村一敏，永田良夫，新名寛子，丸山美知子，水上浩，小幡耕一，塩畑敏之，坪山克之，西野智子，本間敬 事務局 藤枝公室長，後藤課長，石川課長補佐，山本主査，北野主査，成田係長，鈴木主事補
傍聴者 1名
次 第 1. 開会 2. あいさつ 3. 議事〔別記〕 (1) 第1次総合計画の検証結果について (2) 本市の現状と課題及びまちづくりの方向性について (笠間市第2次総合計画) 4. その他〔別記〕 5. 閉会
○議事 (1) 第1次総合計画の検証結果について (資料1により事務局説明) 質疑 委員：政策別にみていきたい。政策1において，P.6に市内各駅の乗降人員数とあるが，これについて詳細に説明いただきたい。 事務局：こちらの数値は市内すべての駅の乗降人員を合計したものになっている。 委員：合計ではなく，駅ごとの傾向をみるのが重要ではないか。友部駅は利便性がよく多いが，他の駅はどうなっているのかなどをみる必要を感じる。駅ごとのデー

タはないのか。

事務局：統計かさまP. 34に市内各駅の乗車人員のデータが、26年度分まではある。

委員：こちらは乗車人数であるが、資料1のデータとは違うのか。

事務局：統計かさまのデータをもとにしている。乗降者という表現は誤りである。乗車人員と修正したい。

委員：また、目標に対してそれを上回ったということだが、人口減少の中にあつてのこの数値の根拠を伺いたい。

事務局：5年前の目標値では7,185人/日と設定しており、人口減少に伴いこの目標値を下げている。結果としては見込んだ目標値よりも乗車数が多いというものになった。

委員：デマンドタクシーの利用者数に関しては、実績値が目標値を下回っている。これについてはどうか。

事務局：いずれも平日のみの利用者目標値、実績値であるが、昨年度は6月より土曜日の試験運行を開始した。そのことによって、平日の利用者が土曜日に流れたと考えられるため、実績値が目標値を下回ったものと考えられる。

委員：降車数は分からないとのことだが、交流人口がまちを活性化させると考えている。降りる方の人数を把握する方が重要でないかと思う。

事務局：降車数はつかめておらず申し訳ない。参考とさせていただく。

委員：この数字が何を意味しているのかをしっかりと考えていただきたい。第1次総合計画の検証を27年度の数字一点のみで行うということが間違いなのではないだろうか。10年間のトレンドを見ていかななくては。少なくともここ3年、5年がどうであるか、という長い目でみなくては何の参考にもならない。

事務局：参考としたい。

委員：評価の仕方が甘いと感じる。満足度が18年度より上昇しているとはいえ、5割いかないということは、まだまだ課題が多いのではないだろうか。ここについても考えていただきたい。

会長：大事な部分である。検証がより効果的になるように、評価方法も含めて見直していただきたい。それでは続いて政策2に移りたい。

委員：統計かさまに、市内の1人当たりの所得が県内34位とある。人口減少に歯止めをかけるには、地域が豊かであるかというのは非常に重要な要素である。これに関するものが産業部門であると思う。1人当たりの平均所得を上げていくためにどういったことをしていけばよいのか、というのを考えていく必要があると感じる。

委員：人口を増やしていくため、特に若い人を確保するためには、働く場の確保が重要である。その中で、この産業部門でどの分野に力を入れたのかというのが分かりやすく示されているとよい。農業なのか、工業なのか。また、P.7をみると満足度が10%台のものがまだまだある。上昇しているとはいえ、10%台でもよいとするの

か、評価方法について気になるところである。

事務局：強みを持つ分野は、統計上の数字でいくと、製造業、小売、卸、また医療福祉系サービス業である。また10%代でよしとするのではなく、上昇目標をもって進めていきたいと考えている。

委員：企業誘致においては、15年間更地であった畜産試験場跡地にあれだけ大きな建物が建っているのを見たり、工業団地にジャパンテックが進出してきたことをみていると、確かに手ごたえのある成果を出していると感じる。雇用がその地で決まれば、衣食住をその地で考えるようになり、地域経済に対してもいい影響を持ってくるのではないか。仕事をするにあたり、職場に近いところに住めるというのは大きな利点である。近隣市町村に目を向けても、水戸やひたちなかでは笠間のような職場と住居が近くに結びつく環境はない。笠間の産業を考えるにあたっては、企業誘致というのが非常に大きな役割を担っていくといえよう。茨城県は企業立地数が全国一ということもあり、他市との奪い合いになる。より企業誘致に力を入れていくことが、この地にとって重要であろう。

委員：P. 8に商工会商業部会員数の指標があるが、様々部会がある中で商業部会を採った理由を伺いたい。

事務局：商業施策の進行の目安に係る数値としてあげさせていただいたという経緯がある。その他の部会がどうなのかという指摘として頂戴したい。

委員：認定農業者数だけを出しているというのも気になる。農業世帯数や従事者数は提示しないのだろうか。また、外に目が向いていないと感じる。地産地消は理想ではあるが、人口減少にある中、市内だけでなく、大都市圏に向けたアピールなどもしていく必要性を感じる。

事務局：認定農業者数を設定した経緯について、これらの指標は5年前の後期基本計画の目標に対し、その達成度を図るものとしておいたものである。当時は耕作放棄地や担い手不足に対して取り組みを行っていたため、農地集積面積や認定農業者数を指標として掲げた。また指標に関して、数値や目標の設定の仕方について毎年度見直しを行ってきているところではあるが、外に向けた視点をいうのを踏まえた中で、これから定める第2次総合計画においては、適正な指標を模索していきたいと考えている。

委員：認定農業者について、入ったのちすぐに抜けてしまったという話を聞く。そういった状況では、この数値はあまり意味を持たないと感じる。

会長：委員の専門的立場からの意見を踏まえ、今一度指標に関して見直していただきたい。

委員：人口減少の中で、国や県は輸出に目を向けている。笠間でも取り組んでいかなければ、遅れをとってしまう。市としても取り組んでいてもらいたい。

会長：豊かさについて、笠間と東京と一緒に考えていては東京に人をとられてしまう。

先ほど出た衣食住近接などをふまえた笠間なりの豊かさをとらえ、産業部門を考えていきたい。続いて施策3に移る。

委員：計画相談支援件数について、今一度詳しく説明いただきたい。

事務局：障害者支援法の改正により、対象者が増加した。それにより実績値が増加したと考えられる。

委員：突然に制度が変わるわけではない。達成度が447.8%となっているが、こんな数値が出るということはそもそも目標値が間違いであると思う。

事務局：ご意見として頂戴し、第2次総合計画では目標値の設定について検討させていただきたい。

委員：がん検診の受診率が目標値に対して非常に低い数値だが、高齢化が進んでいく中で、笠間市が健康問題にどう取り組んでいるかというのが現れた数値であると思う。この目標値に関して何を根拠にこの数値を定めたのか伺いたい。また、高齢者の社会参加率の低さが気になる。笠間に住む高齢者が生き生きと暮らすためにすべきことを考える上で、ここをしっかりと分析してもらいたい。

事務局：がん検診受診率の目標値に関しては国の目標値50%に近づけるといことで設定したもの。国の目標値には企業検診を含んだ数値だが、実績値の方は住民健診のみの数値になっている。目標達成に向けチャレンジした数値のため、目標値が高くなっているが、結果として開きが出てしまった。また高齢者の社会参加率というのは高齢者クラブの加入率をもとにしている。定年の延長、ライフスタイルの変化に伴い年々加入率が低下している。こちらの指標に関しても見直しを検討させていただく。

事務局：市の課題として、国保のデータしか取れないというのがある。健保組合や共済など、国保以外の方のデータの把握に関しても今後考えていきたい。

委員：高齢者クラブの加入率で社会参加率を図ることは無理がある。加入していない人でも様々に活動を行っている人はいる。また施設入所者数のデータにどれほどの意味があるのか。入りたくても入れない人がいる。検討してもらいたい。

小原会長：事務局は検討をお願いしたい。続いて政策4に移る。

委員：公営住宅の整備、ゴミ収集やし尿処理サービスは、何をもち満足度をはかっているのか。

事務局：公営住宅の整備では、今の配置数に関してどう思っているかを伺った。ゴミ収集でも、全般的にサービスをどう思っているかを伺ったものである。具体的には、日々の回収の頻度に対し満足しているかといった聞き方をした。し尿処理サービスでは、現在の生活排水処理サービスについてどう感じているかを伺った。公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽の3点でアンケートをとった。

委員：公共住宅では満足度が50%を越えるような状況でなければならないのではないか。またゴミ収集では、指定管理者が変わるだとか、そういった変化がなければ

数値が動くものではないだろう。し尿処理に関しては、たとえば汲み取りの料金は合併によって何か変化があると思ったが、特に変わらなかった。何に対する満足度をはかるのかよく考えていただきたい。

事務局：参考にさせていただく。

委員：自然環境の保全に関して、平地林の整備はなされておらず、山が荒れっぱなしという状況の中で、満足度が上昇しているということに疑問を抱くが、どういう観点から満足度をはかっているのか伺いたい。

事務局：1%上回っただけでも上昇とはさせていただいているが、5%程度の上昇に関して、アンケートの精度・誤差を考えた中ではその理由をはかりづらいものにはなっている。実感度調査は施策に対する総論的なものを把握するものになっており、より精度を上げたマイクロでの分析をはかるには対象を絞った上で調査を行わなければならないと感じている。あくまで市への施策への総論として示させていただいているということをご理解いただきたい。

委員：P. 12に市民一人当たりの公園面積という指標があるが、人口が減れば一人当たりの面積が増えることは当たり前である。面積というよりも、質の問題に注視していただきたい。

事務局：ご意見として、検討したい。

委員：災害ネットワーク会議に出ている立場から、震災を経たにも関わらず、消防・防災対策における満足度が平成18年度から18%しか上昇していないということに危機感を覚える。実際に災害に強いまちづくりを目の当たりにしてきたが、そういったところとの比較をふまえると、総括検証にあるように「災害に強い安心・安全なまちづくりを進めてきた」とは言い難い状況にある。これから先ビジョンを掲げる中で、災害に強いまちづくりというのを第一に考えていただきたいと思っている。

事務局：ご意見として、検討したい。

委員：生活環境全体に係る意見となるが、まずメガソーラーの設置で環境が荒らされている。山肌が削られたことにより、米農家からは水質を心配する声が出ている。先のタウントーキングでは市長より住民への説明は十分に行うとあったが、条例を定めれば何をやってもいいわけではなく、今の状況では自然と共生しているとは言いがたい。また、畜産業において糞尿を垂れ流しているのではないかとということも聞く。住んでいる地域が涸沼川の支流であり、昔は鮭や蛍がいたが、近頃は見なくなった。抜き打ちで立ち入り調査などもしてもらいたい。さらに防災に関して、平成30年に向け消防団の合併が行われるが、詰所が地域住民の防災拠点になっている部分がある。使わなくなる詰め所を全廃するとの話を耳にしたが、是非見直してもらいたい。防犯分野では、夏休みであったこともあってか、この1,2ヶ月は凶悪な事件が多かったように思う。今後、教育などの分野と連携し対策を

進めていってほしい。

事務局：今後、検討していきたい。

会長：いくつかの地域の総合計画に携わらせていただいているが、笠間市においては満足度が上がっているものしかない点が気にかかる。もとの満足度が低かったのかもしれないが、これから目標値としてさらに上昇目標を掲げるとなると、そのうち目標値が9割に到達することもあるかもしれない。しかし、多様な人がいる中で、満足度が9割というのもかえって異常である。現在のところをみると、数値を上げることに躍起になっているように思えるが、総合計画において大切なのはまちを良くしていくことである。これを意識し、総合計画をつくってってもらいたい。続いて政策5に移りたい。私から1点先にお伺いしたいが、高齢者との交流会というのはどの世代における話か。

事務局：幼児教育において交流会を行っている。

委員：学力診断において、実績値がマイナスになっているが、H27だけなのか、それ以外でもずっとマイナスなのか知りたい。

事務局：H24からとっているものであるが、H24は県平均より2点、H26は県平均より1.1点上回っている。反対にH25、H27では下回った。

委員：この指標をどうとらえていったらよいか。

事務局：毎年度、県平均より2.5点上回ることを目標に掲げているが、この点数をもとにどう教育に反映させていくかを考えることは難しいことであり、あくまで結果として平均を越えたかどうかを把握しているだけにすぎない指標にはなっていない。

委員：P.14に地域の歴史・文化やお祭りといった項目があるが、これは何を伺ったものか。

事務局：アンケートを答える方によって地域を行政区でとらえるか、大字単位でとらえるかが変わってきてしまうものではあるが、地域の伝統行事やお祭りに満足しているかという聞き方で実施した。

委員：この指標をもってどんなまちづくりに生かしていきたいのか。数字を出すにしても、せめて大字が分かるようなものでなければ、出てきた数字は役に立つものにはならない。どう考えているかお聞きしたい。

事務局：旧3市町までは把握ができていますが、市として伝統行事等の保存に携わるにあたっては、さらに細かく数字をおさえていく必要はあると感じている。

会長：今後、指標の取り方も検討いただきたい。それでは政策6に移る。笠間市は県央県北の中でも協働もまちづくりが進んでいる、と感じていたのだが、数値をみるとそうでもないようである。ハード面の整備だけで終息してしまっているのだろうか。綺麗事でなく、これからはこの協働というのがやはり重要になってくる。危機感を感じているのは庁内だけで、市民の方はあまり感じていないように思え

る。これから一番重要ともいえる協働の部分が弱い。新しい総合計画を作っていくにあたって、市民の協働意識を喚起できるようなものであるといいのではないか。それでは他に意見があれば。

委員：まちづくり市民活動助成金助成団体数は単年度か。

事務局：単年度の数値である。今までは、5年間で43団体に助成実績がある。

委員：団体数を把握するだけでなく、活動内容がどんなものであるかを把握しておくことも重要である。先ほどもあったが、数値を増やすことだけが目的ではない。数字だけ見るのは危険である。

事務局：今後検討させていただきたい。

委員：ここまで聞いてきて、達成状況は丁寧に書かれているとは感じるが、他市町村との比較を総括検証で行うというのはできないのだろうか。

事務局：類似団体との比較に関して、以前検討をはかったものの、比較できない項目も多々あるのが事実である。全施策において比較を行うというのは、難しいのではないかと感じている。

委員：難しい部分もあると思うが、分かりやすさは増すと思う。総括検証の中で何か書けるものがあればと思い提案したい。

事務局：参考としたい。

委員：まち・ひと・しごと創生本部でRESASという地域経済の分析システムを導入しており、一般の人でも簡単に他市との比較なんかができる時代になってきている。こういったものを役所においても活用し、分析されてはどうだろうか。

事務局：ご意見として頂戴する。

委員：第1次総合計画の検証ということでH18とH27とを比較しているが、話し合いにおいては短い期間での数字を出していただいた方が分かりやすいと感じた。

事務局：検討したい。

委員：これからのことだが、政策3において、指標としてAEDの設置数というのも組み込んでいただきたい。これから高齢化が進む中であって、これは数値として増やしていく必要のあるものである。

事務局：ご意見として頂戴する。

委員：統計かさまにおける数値と、今回の検証における数値がリンクしていないように感じる。また、指標ごとの傾向、トレンドが分からず、答えられる状況にもないようである。傾向が分かるように、数値を並べておいてほしい。

会長：事務局には意見を参考にし、対応いただきたい。

(2)本市の現状と課題及びまちづくりの方向性について

(資料2により事務局説明)

質疑

会長：まず1. 総合計画策定の背景～本市の現状と課題～について議論したい。

委員：P. 6に世帯数が載っているが、これを施策にどう反映していくのか説明いただきたい。

事務局：核家族化が進み、世帯の年齢がより限定的になってきている。こうした中、高齢者に対して、あるいは子育て世代に対してどのような対策や取り組みを行っていくかを考えていく上での参考として活用できるよう掲示したものである。

委員：この数値を見た上で、高齢化世帯にどういった政策を行うかというのをみると同時に、その10年後は空き家対策にもつなげていかなければならないというように、都市計画の観点も必要になる。こういった発展的な見方もこの情報から読み解いているのだろうか。

事務局：ご指摘のあった通りそういった視点をもって施策を実施していく必要はあるが、これは世帯数が増えるという事実を捉えたデータであることにとどまる。

委員：P. 8の冒頭部に、「人口減少、少子高齢化の進展」との文言がある。インパクトのある言葉ではあるが、笠間市のすべての地域がこの文言にあてはまるわけではない。旭町などは人口が増えているものの、「人口減少」という言葉に縛られていて、反対に人口が増えていくところへはどういった対策を行っていくのかという部分が見えてこない。たとえば質のいい住宅を整えるなど、マイナスの部分だけでなく、プラスになっている部分を伸ばしていくという視点が欲しい。分析が「人口減少、少子高齢化の進展」という点に偏っている気がする。

事務局：ご意見のとおりである。今回、人口減少や少子高齢化の進展を前提としているが、その部分への対策をうつことのみがまちづくりではないとして、総合計画を考えていきたい。

委員：地元の間が住みづらいまちであると感じている。クリーン作戦などの地域活動に出てくる人は限られており、協力しない人が増えてきた。また、近隣トラブルも増えている。市として、近隣トラブルへの対処を行うなど、今この地域にいる人へ目を向けることも必要なのではないだろうか。

事務局：参考としたい。

委員：これらの文章を市民の方にも読まれるよう意識し、もうすこし分かりやすく編集されたい。このままでは長すぎるのではないか。また、文章に内容や数値で笠間らしさを感じられると、市民の方が問題意識を持ってくれるようになるのではないかと思う。

会長：先に述べてしまうが、まちづくりの方向性に関しても、働きやすい、訪れたいというのはどこの市町村でも目指し、基本としている部分である。また、企業なんかだと達成目標を掲げるが、それと同様、時期見直しをはかる2021年までに何が起こるかということを計画の中に予測・反映させていく必要を感じる。

事務局：検討する。

委員：農林業について、担い手の確保や農地の集積というのはもちろん必要なことであるが、地場農産品のブランド化や海外への販路拡大を図るには、これからは農業の法人化ということも考え、文言として入れていかなければならないだろう。

会長：また、儲ける農業だけでなく、集落営農なども取り組まれている点から、コミュニティを維持する農業というのも重要になるだろう。

委員：笠間市の現状と課題に関して、では笠間市の高齢者がどういう状況にあるのか、具体的なものが見えてこない。これでは危機感も感じられず、住民に共有することもできない。また、女性や高齢者の就労についても現状でどれだけの人が働いているのか、女性はどれだけの人が働きたいと思っているのか等のデータがない。数値を出すなら、ここで提示していただけるとありがたい。さらにまちづくりの方向性において、基本指針はなぜ3つに絞ったのか、その根拠が分かるようになっているとよいのではないだろうか。

事務局：ご意見として、参考とさせていただきます。

委員：「人の減らないまち」、「100歳の高齢者が一番にいるまち」のように、分かりやすいスローガンが必要であるように思う。人口減少への諦めが見て取れるようなものになってしまっている。

委員：昨年笠間市は、消滅可能都市とされたが、こういった文言は文章中には用いないのか。どういったことで消滅可能都市とされたのか、その分析も兼ねて、文章中で触れてもよいのではないかと感じた。また会議の進行に関して、頂いた事前資料には目を通してきているので、これを読み上げることに時間を割くのではなく、話し合いに時間をいただきたい。

事務局：ご意見ありがとうございます。

委員：農林業とあるが、施策は主に農業のことになっており、林業はあまり語られていない。分けて考える必要を感じる。

事務局：検討する。

委員：P.7分布図では重要度／実感度と表現されているが、資料1では満足度とあった。これは違うデータを用いているのか。

事務局：資料1ではH18年度当時、市民満足度という名称で調査を行っていたが、後期基本計画ではそれを市民実感度に改称した。資料1でH27年度も満足度と表記したが、これは比較するにあたり実感度を満足度と言い換えたにすぎない。

会長：続いて2.まちづくりの方向性に移りたい。

委員：笠間市創生総合戦略とあるが、これと総合計画の関係性を伺いたい。

事務局：総合計画は市政全般を定めたもので、土地利用に関するものから自治・協働に関するものなどすべてを網羅したものである。総合戦略に関しては人口減少の抑制、地域経済の活性化を重点に置き、第2次総合計画の中の1プロジェクトとしての意味合いを持ってくるものである。今回話し合っていたらいる総合計

画の基本構想というのは最上位のものとなり、それに沿うものとして下層に総合戦略が位置する。

会長：基本方針がやはり、笠間市だけでなくどこでも通用するものになってしまっているように感じる。大枠は変えられないのであれば、せめて説明の部分に笠間市の特徴が感じられる文言が入ってくるとよいのではないか。「多様なライフスタイルを受け止めるまち」、「多様な人たちが輝けるまち」などもよいと思う。また、人口減少に関しては「コンパクト」「抑制」「現状維持」といった言葉を用いるなど、工夫が欲しい。こういった点をふまえ、再び提示いただければと思う。

○その他

委員：会議に関して、時間で区切れるものではないと思う。また、議論の場であるので、決まったものを持ってくるのではなく、白紙のまま持ってきてここで議論するなどあり方を考えるべき。また、今日の会議で出た意見を反映し、今日のうちに承認を得るのだろうか。

会長：この会議中に議決を得ることは無理であろう。事務局には本日出た意見を持ち帰っていただき、次回の会議のはじめに再度提案、承認という形になるだろう。また様々な職種の方が集まっているので時間設定が難しいが、もうすこし早く招集する等検討いただきたい。

事務局：会議開催時間に関しては考えていきたい。また承認に関して、今回のご意見をふまえて資料を修正し、それをお手元にお送りしたのち再度ご意見を頂戴した上、さらに修正したものを次回の審議会にかけるのがよいのではないかとと思うが、どうだろうか。

会長：それでよろしいか。

委員：異議なし。

会長：後ほど事務局からお送りする資料に目を通していただき、再度ご意見等あれば事務局に提出いただきたい。

事務局：次回に関しては追って連絡する。今回のご意見をふまえ、資料を再編、再度お送りしお目通しいただいた上でご意見を頂戴できればと考えている。9月末を目安にご意見収集を行いたい。

閉会